

# 【成果概要】3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価【名古屋市】

## ■ 成果

- 名古屋市に影響を与える可能性のある豪雨について、愛知県全体を含む領域(右図参照)で、将来頻度及び強度について影響の可能性を調査した。ここでは各時間に最も多い降水量を抽出し、解析した。
- 一般的な豪雨対策基準である時間雨量50mmの基準となる豪雨は現在より1.2倍程度頻度が高くなる可能性が見られた。また、同程度の累積確率で発生する豪雨を現在と将来で比較したところ、将来の豪雨は強くなる傾向が見られた。
- 市内の豪雨の内水氾濫に対する適応策としては、ハザードマップの更新、タイムラインの作成、普及啓発が妥当と判断された。

## ■ 課題

- 極端な豪雨の解析は気候シナリオにより異なる傾向を示す可能性が考えられる。更に多くの気候シナリオの検討が望まれると共に、結果の利用に際しては不確実性に対する考慮が必要である。

解析対象領域(愛知県)

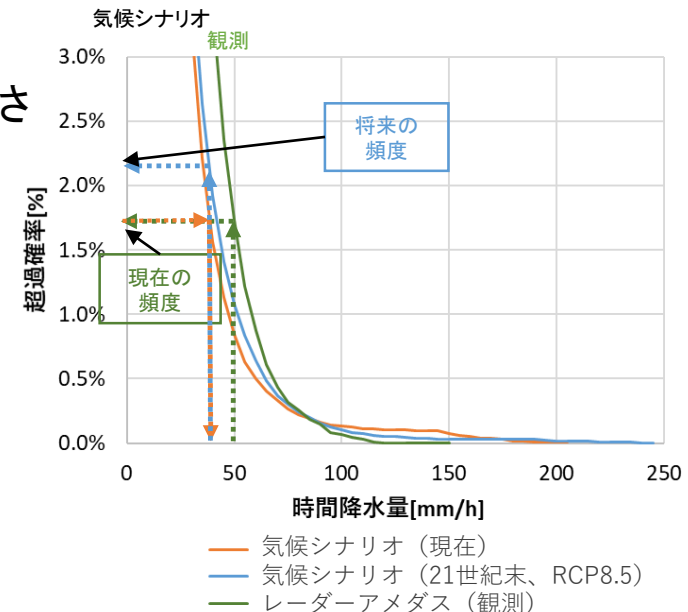


図. 領域最大降水量の超過確率  
(時間50mm相当の雨の将来発生頻度の検討に利用)

# 3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価【名古屋市】

## ■ 適応オプションのまとめ

表. 名古屋市内の内水氾濫に対する適応オプション

適応オプション	想定される実施主体			評価結果							
				現状		実現可能性				効果	
	行政	事業者	個人	普及状況	課題	人的側面	物的側面	コスト面	情報面	効果発現までの時間	期待される効果の程度
ハザードマップの更新	●			普及は進んでいない	・特に無し	◎	○	△	◎	短期	高
タイムラインの作成	●	●	●	普及は進んでいない	・事業者、個人への普及は限定的	△	○	△	◎	短期	高
普及啓発	●			普及は進んでいない	・効果の実証が難しい	◎	○	△	◎	N/A	高